

世界での活躍が期待される岩手出身の2人と日本代表監督が熱く語る!!!

日本代表監督酒巻清治氏・県人選手によるトークイベント

3/27(土)16:30~男子ナショナルチーム監督 酒巻清治氏 (トヨタ車体所属)

3/28(日) 16:30~2年連続日本リーグ得点王 上町史織さん (盛岡出身、北國銀行)

2009JOC オリンピック有望選手 齊藤凌君 (花巻北中3年)



男子ナショナルチーム 世界選手権大会出場おめでとう!

☆会場：花巻市総合体育館

☆お楽しみ抽選会があります。

※入場時に整理券を配布します。

☆全国選抜大会の競技終了直後に行いますので、多数のご来場をお待ちしております!

第22回男子世界選手権大会 2011.1.13(木)~1.30(日) スウェーデン

ロンドンオリンピック出場に向けて

みなさまのご活躍を心からお祈りしています!



第14回男子アジア選手権(2011年男子世界選手権予選) 試合結果 (日本協会HPより引用)

<予選ラウンド> グループA: サウジアラビア, 中国, シリア B: 日本, バーレーン, イラク
C: 韓国, カタール, UAE D: イラン, レバノン, ヨルダン

2/7 (日) 日本 vs イラク 35 (19-13, 16-8) 21

【得点】9点: 宮崎、4点: 豊田、信太、門山、3点: 末松、東長濱、2点: 武田、岸川、猪妻、1点: 富田、野村

2/11 (木) 日本 vs バーレーン 31 (16-12, 15-15) 27

【得点】7点: 宮崎、5点: 豊田、4点: 末松・武田、3点: 富田・野村、1点: 永島・岸川・信太・門山・東長濱

<本戦ラウンド・順位決定ラウンド>

◆本戦ラウンド組分け

グループ<A>	予選B組1位 日本	予選D組1位 イラン
	予選C組2位 カタール	予選A組2位 サウジアラビア
グループ	予選A組1位 シリア	予選C組1位 韓国
	予選B組2位 バーレーン	予選D組2位 レバノン

2/13 (土) 日本(B1) vs カタール(C2) 29 (15-10, 14-10) 20
(1勝) (1敗)

【得点】7点: 宮崎・末松、3点: 豊田、2点: 前田・岸川・信太・門山、1点: 富田・武田・猪妻・野村

2/14 (日) 日本(B1) vs サウジアラビア(A2) 26 (12-15, 14-13) 28
(1勝1敗) (2勝)

【得点】6点: 豊田、4点: 宮崎・岸川、3点: 東長濱・野村、2点: 富田・武田、1点: 永島・門山

2/15 (月) 日本(B1) vs イラン(D1) 36 (21-11, 15-12) 23
(2勝1敗) (3敗)

【得点】8点: 宮崎、5点: 信太、4点: 猪妻・野村、3点: 末松・門山・東長濱、2点: 豊田・富田、
1点: 武田・岸川

2/17 (水) 準決勝: 韓国(B1) vs 日本(A2) 30 (14-12, 16-11) 23

【戦評】宿敵・韓国との対戦は宮崎・豊田の連続得点で始まる。8分、3-4と1点リードされている場面からGK高木の連続セーブで流れを引き寄せ、岸川・武田・野村の3連続得点で6-4とリードする。この流れでゲームを進めたい日本だったが、パスミスからの失点で6-6の同点に追いつかれると、シュートミスも重なり14分から5連続失点などで22分に8-14と6点差をつけられてしまう。

ようやくディフェンスが機能した日本はGK高木の連続セーブもありここから前半終了まで、韓国を無得点に抑える。その間に門山・豊田・末松らのシュートが決まり、前半を12-14の韓国リードで折り返す。

後半、良い流れを継続したい日本はシュートチャンスをつくるがゴールが決まらず、逆速攻など3連続失点で12-17とされると、悪い流れは続き、6分にも3連続失点で9分に13-20と7点差をつけられる。その後、末松・野村・門山らのカットインや永島のポストなどで得点するが、点差はなかなか縮まらず23-30でタイムアップ。アジア選手権の決

勝進出はならなかった。現地時間の19日に、世界選手権出場の最後の一杯をかけて、前回敗戦しているサウジアラビアとの3位決定戦が行われる。

【得点】6点：豊田、4点：末松、3点：岸川・門山・野村、1点：宮崎、武田、永島、信太

2/19 (金) 3-4位決定戦： サウジアラビア v s 日本 30 (12-14, 15-13) 33
(2-3 延長 1-3)

【戦評】世界選手権の出場権をかけた3位決定戦。相手は予選リーグで苦杯をなめているサウジアラビア。立ち上がり、相手のラフプレーでいきなりパワープレーのチャンスを得ると、日本は豊田のカットインで先制点を上げる。7分までは野村・宮崎の速攻で加点し3-2とする。8分過ぎ、再びパワープレーのチャンスにGK高木の連続セーブから宮崎・豊田の連続得点で5-3。このリズムを継続したい日本だったが11分過ぎ、ミスから4連続失点で6-7と逆転されてしまう。しかし、大会を追うごとに安定してきているディフェンスが相手のシュートミスを誘い、19分に再び末松・宮崎の得点で9-8と逆転に成功。その後も宮崎が連続ゴールを決めればサウジアラビアもエースが決め、前半を14-12の2点リードで折り返す。



後半開始直後、ミスから相手に速攻を許し、3連続失点で14-15とまたも逆転されてしまうものの、すぐさま宮崎・豊田・武田のゴールで17-16とする。8分過ぎ、お互いに得点を重ね18-17となるが、ここでも逆速攻での連続失点で18-21と3点リードを許してしまう。東長濱の得点で1点返すが、連続失点で19-23とされ13分に、この試合最大の4点差をつけられてしまう。ここで踏ん張りを見せた日本は豊田・宮崎・野村の得点で20分24-24の同点に追いつく。21分、相手の7mスローが決まり24-25とされると、完璧なコンビプレーから永島が決めたポストシュートがラインクロスと判定され得点にならず、逆にミドルを決められ24-26。劣勢の日本はタイムアウトを請求するとエース宮崎・武田が冷静にゴールを決め26-26の同点に追いつく。26分、ここで日本は2人連続で退場者を出してしまい、4対6の絶体絶命に。しかし、ここでも守護神・高木がノーマークのサイドシュートをセーブしゴールを死守する。28分に相手が退場の間に門山がカットインを決め27-26と1点リードすると、サウジアラビアもタイムアウトを請求し、最後まで1点を争う戦いに。29分、相手エースのミドルシュートをセーブするものの、リバウンドが相手に渡り、



27-27の同点となり決着は延長戦に持ち込まれる。延長前半、サウジアラビアにミドルシュートを決められ29-30。落ち着いてプレーする日本は、豊田・東長濱・宮崎の3連続得点で30-28とリード。このまま2点差で後半に進みたいところだったが、残り4秒で逆速攻を許し、30-29で折り返す。

延長後半、再びサウジアラビアのミドルシュートが決まり30-30の同点になるが、東長濱がカットインから得た7mスローのチャンスを豊田が落ち着いて決め31-30に。さらに残り1分、豊田のミドルシュートが決まり32-30と2点差をつける。

試合は、残り5秒に岸川が持ち込んだカットインが7mスローと判定され、ノータイムの7mスローをキャプテン末松が冷静に決め33-30でサウジアラビアに勝利。

アジア選手権3位となり、2011年の1月にスウェーデンで開催される世界選手権への出場権を獲得した。

【得点】13点：宮崎、10点：豊田、3点：末松、2点：武田・東長濱・野村、1点：門山

決勝戦 バーレーン v s 韓国 25 (13-16, 12-16) 32

【写真提供：久保弘毅/スポーツイベント・ハンドボール】

《以下、(株)スポーツイベントホームページより引用》

2010年02月23日 凱旋!!!!

2月21日の日曜日、午後7時過ぎの成田空港。

レバノン・ペイルートで開かれたアジア男子選手権で、来年の世界選手権出場権を勝ち取った酒巻清治監督以下、日本代表チームが帰国しました。

川上憲太専務理事ら日本ハンドボール協会役員はもちろん、選手の家族や熱血サポーターも出迎えに駆けつけ、チームのみなさんと喜びを分かち合いました。

バンクーバー・オリンピックへ出かける選手たちの見送りや、バンクーバーから戻る選手たちの出迎えには数では劣るかもしれませんが、熱く、温かい心では、決して負けないものがあつたように感じました。懸念された運営やジャッジは、なんの問題もなかったことで、日本セブンはもちろん、他の国の選手たちのモチベーションもいつになく高かつた今大会。

そんななか、思う存分、力を発揮し、しっかりとチャンスをこの手でつかみとって来た選手たち、スタッフのみなさんに、もう一度、拍手をおくりたいと思います。

と同時に、これまで理不尽な運営、ジャッジに苦しめられてきた先人たち、その状況をなんとしても改善、正常化しようとエネルギーを注いできたみなさんのことも、改めて胸に刻みたいと思います。

本誌では、4月号の誌面にて、単身ペイルート入りした久保弘毅さんによる、今大会の特別レポートをお送りする予定です。

2010年4月号をお楽しみに!

「第一関門突破!」

表紙：日本代表

